

令和7年度 委託研究募集テーマ

令和7年度の委託研究課題は、以下のテーマに沿うものを募集することとします。
AI技術の進歩等、社会の変化を見据えた先進的な提案を期待します。

	研究テーマ (募集リーフレットはカッコ書きのみ)	具 体 例
1	<p>【救急業務等における情報通信技術】 救急業務においても情報通信技術を駆使した様々な取組が見られるようになったが、この分野の技術は今後めまぐるしい進歩が見込まれることから、その活用方法については幅広い調査・研究を行い、救急業務等の更なる効率化に繋げることが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○救急医療情報システムの整備 ○通信・指令情報システムの整備 ○情報通信技術の有効活用・研究 ○I Cタグを用いた多数傷病者対応 ○電子ペーパーを用いた活動記録表の管理 ○ウェアラブル端末を用いた現場活動等 ○A Iの活用・研究
2	<p>【病院前救護に関する教育体制】 救急救命士の処置範囲の拡大等、救急業務の高度化が進み、救急隊員等の資質向上が提唱される中、指導救命士を中心とした、救急救命士の再教育や生涯教育も含め、スタンダード且つ、地域特性に応じた教育カリキュラムの検討・導入は、喫緊の課題である。また、口頭指導はもとより、P A連携や消防・ドクターヘリ要請の判断、心停止の早期認識を119番通報受信段階で判断できる通信指令員を養成していく体制の確立も必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○指導救命士による教育体制の構築 ○救急隊員・救急救命士養成課程講習 ○生涯教育（再教育）カリキュラムの確立 ○病院実習カリキュラムの確立 ○通信指令課員への教育 ○准救急隊員への教育 ○災害対応力の向上
3	<p>【応急手当に関する普及啓発活動】 救急需要の高まりによる救急車の現場到着所要時間の延伸により、救急現場におけるバイスタンダー（現場に居合わせた人）が行う応急手当は、救命率向上のためにこれまで以上に重要なものとなっている。受講機会の拡大を図るため、住民のニーズに合わせた実施要綱の改正の他、各地での様々な取組みが進められているが、地域格差もある等の課題も見られる。 効率的・効果的な応急手当普及啓発と併せ、更に質の高いバイスタンダーを育成することも必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○バイスタンダーの技術と意識向上方策 ○再講習受講率増加対策 ○新ガイドライン普及啓発 ○定期的に受講する仕組み作り ○バイスタンダーの不安を取り除く対策 ○ファーストエイド普及要領 ○学校B L Sの普及方策
4	<p>【高齢化の進展等時代の変化に対応した救急業務等】 高齢化の進展により、救急車による搬送人員における高齢者の割合も年々高くなっており、今後も更に増加していくことが予想されている。救急出動件数の増加と高齢化社会の関係や消防機関と関係機関との連携の他、訪日・在留外国人傷病者対応等について、これからも時代の変化に対応した調査・研究が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○消防と医療、地域行政機関との連携 ○超高齢社会における救急業務のあり方 ○老人福祉施設との連携 ○高齢者に特化した搬送・受入れ体制の整備 ○災害時要配慮者への対応 ○外国人傷病者への対応 ○感染症蔓延時の対応に関する研究